

今なお組織形態の現実的な選択肢

「カンパニー制」 導入上の着眼点

第1章 事例からひもとく

カンパニー制の概要と基本的なしくみ

第2章 分権度合い、間接コスト、シナジーでみる

カンパニー制と他の組織形態との比較

第3章 メンバーシップ型人事が足かせに？

日本企業が陥りがちなカンパニー制の課題

第4章 ガバナンス改革やジョブ型雇用が追い風に

カンパニー制の課題克服に向けた機運の高まり

第5章 4つの視点から考える

分権型組織への移行を検討する場合のポイント

マーサージャパン(株)

大路 和亮
戸川 武則
高田 充

今年に入り、複数の大手企業が導入を発表するなど、カンパニー制は今なお現実的な組織形態の1つとなっている。事業環境が目まぐるしく変化するなか、迅速な意思決定を行うための分権経営を志向する動きやジョブ型雇用への関心の高まりといった背景があるようだ。本特集では、カンパニー制の基本的なしくみや他の組織形態との比較等を踏まえたうえで、実際に移行を検討する場合のポイントを解説していただいた。